

平成三十年四月九日(月曜日)

参議院 決算委員会 質問概要



羽生田 俊

自由民主党副幹事長
参議院財政金融委員会理事
参議院議員

医療費亡国論について

○羽生田
医療費亡国論に医療界は長い間苦しめられてきたが、現在は革新的な新薬、医療機器・医療技術の進歩等によつて治らなかつた病気が治り、入院日数も短く社会復帰が早期になった。また、社会保障分野は雇用面でも貢献度が高いことから、現在の医療界は医療費亡国論でなく医療費興国論であると認識すべきで、医療分野に財源を充てる事が経済活性化の一番の要因になると考えるが如何か。

●麻生財務大臣
16年度〜18年度の社会保障関係費の伸びを1.5兆円程度とする事が3年間で達成された。これは日本の財政再建において非常に大きい、今後も2020年度において高齢化による増加分等々に納める事を目指し、皆保険などの医療制度において、人口減、少子高齢化の中、持続可能なものにしていかなければならない。制度の重点化・効率化など含め厚労省をはじめ関係省庁と連携し医療分野のあり方を考えていく。

プライマリバランス 黒字化について

○羽生田
骨太方針2018の取りまとめが進められているが、医療費は消費でなく投資であり、プライマリバランス(基礎的財政収支)の黒字化の為に必要な社会保障費を抑制することはむしろ逆ではないかと考えるが如何か。

●麻生財務大臣
財政健全化は日本の国際的信用の基盤である、PBに關しては手段でありこれを基にターゲットを持つて経済を成長させて行くため、羽生田先生の指摘の点にも十分に対応していかねばならない。

医療における 控除対象外消費税について

○羽生田
来年10月予定の消費税率10%への引上げに際し、医療における控除対象外消費税問題の抜本的解決についてお考えは如何か。

●麻生財務大臣
与党税改正大綱において、実態把握と医療保険制度における手当のあり方の検討を併せて平成31年度税制改正に対し抜本的な解決にむけ総合的に検討し結論を得るとされている事を踏まえ、与党の意見を聞いた上で財務省としても、関係省庁と連携し検討させていた



保険調剤薬局における 配当金のあり方について

○羽生田
保険調剤薬局が株式会社として多額の内部留保を保持し配当金を株主に配当している現状を踏まえ「保険調剤の財源は保険財源でありすべての国民の保険料・税金・自己負担です。この保険財源から株主に配当されるという事は倫理的にも許されません。保険調剤に關しても医療機関と同じく配当や営利目的は許されないとすべきで非常に大きな問題であると考えが如何か。

●加藤厚生労働大臣
調剤部分に営利を目的とする者による開設、その配当などを制限することが、現行制度ですでに許可を受けている開設者の取扱い、関係する他の制度での事例を含めて、慎重な検討が必要だと考えている。

結核等2類感染症入国前スクリーニングについて

○羽生田
外国人技能実習生制度において入国前に結核などを代表する2類感染症のスクリーニング検査が法令で義務づけられているにもかかわらず実施されていない。入国前スクリーニング実施は重要であり在留資格交付やビザの発給の段階で徹底すべきであると考えるが如何か。

●法務省
出入国管理及び難民認定法において結核を含む2類感染症の患者は我が国に上陸出来ないこととされています。先生ご指摘の入国前スクリーニングの重要性は本年2月厚労省の審議会でも議論されており、関係省庁と協議の上、入国前スクリーニングの実現に向け検討して参ります。

訪日外国人の医療費未払いについて

○羽生田
訪日外国人観光客が国策として増加する中、それに伴い医療機関においても外国人受診が増えている。沖縄県医師会の調査によると受診増加に併せて医療費の未払い問題も増加している。救済制度などの対応は如何か。

●加藤厚生労働大臣
意思疎通を含む多言語対応、地域での体制を整備することや、受け入れモデル構築事業や、内閣官房の下ワーキングチームでの検討などを含めて、未収金への対応、相談窓口の創設、医療機関に対する支援体制、民間保険等活用等々を広範囲かつ具体的に議論をして訪日外国人に係わる医療問題に取り組んでいきます。

日本における予防接種について

○羽生田
諸外国との往来が人も物も増えてくるなかにおいて平時の国家安全保障としてのワクチンの必要性について、日本における総合的なワクチン行政のあり方や、ビジョン、また開発研究におけるお考えは如何か。



●厚生労働大臣
感染症の発生また蔓延予防、海外からの感染症対策等々予防接種は大変大事な施策である。ワクチンで防げる疾患はワクチンで防ぐという基本的な考えの下で有効で安全なワクチンの研究開発の支援、予防接種行政に取り組まさせていただきます。

遺伝子ビジネスの問題について

○羽生田
ゲノム医療における研究開発がなされ日進月歩で実用が進んでいることは医療界としては期待しているが、一方で遺伝子ビジネス称し精度管理もルールもないまま医療的診断まがいのことが行われている。規制やルール作りは急務と考えるが如何か。

●経済産業大臣
自主的な健康維持増進につながるという期待の一方で信頼性確保の重要性、個人情報保護、検査の質の確保等々ガイドラインの策定、業界独自の認定制度の開始を含め、サービスの信頼性向上に向けて関係省庁とも連携していきたい。

医師の働き方改革

○羽生田
最後に、医師の働き方というものには救急医療など地域医療崩壊につながるものもあるという事を国民の方にも理解をお願いしたい、そのうえで皆さんのご意見を頂きたい。

